



TAKEISHI Kazuharu Japanese lacquer Exhibition



武石和春 漆芸展

2015.11/12(木)~11/17(火) 11:00~19:00 (Last day-16:00迄)



漆芸 / 武石和春 略歴



- | | |
|-------|--|
| 所属 | 元日展会友・日本現代工芸美術科協会本会員
(一般社団法人)大阪工芸協会副会長 理事
茨木美術協会副会長 茨木市美術展実行委員
元茨木市都市景観委員会副会長 |
| 1951年 | 大阪府茨木市に生まれる |
| 1969年 | 大阪市立工芸高校図案科卒業 |
| 1971年 | 日展初入選 |
| 1981年 | 日展会友推挙 |
| 1993年 | 大阪府工芸功労者表彰(2002大阪府知事表彰) |
| 1997年 | 第36回日本現代工芸美術展審査員・
NHK 会長賞茨木市役所南館壁画 漆芸「爽眺」 |
| 2004年 | 茨木市生涯学習センター壁画 漆芸「街の詩」 |

「漆」と聞くと、日本の伝統的な工芸品の一つである漆器を思い浮かべる方が多いと思います。漆は、縄文時代から日本で使われ、以来技を磨きながら師から弟子へ伝えられてきました。今回は、その漆を器に塗って仕上げるのではなく、絵の画材として用いて制作されている武石和春さんの作品をご紹介します。

会場に入ってもまず目を惹くのは、発色の良い様々な「色」。武石さんの作品には、朱や黒をベースに、その他黄色やオレンジ、青、緑、白に至るまで実に様々な色の漆が使われています。昭和以前では漆といえば朱や黒色のものしかありませんでしたが、近年では新しい顔料を混ぜることで様々な色の漆を作ることが可能になり、表現の幅が広がりました。そのため、今まで漆に持っていたイメージを覆すような斬新な印象の作品になっています。

画面には、直線や曲線、線の強弱などを使ってそれぞれ異なるイメージに仕上げられた抽象的なものから特定のモチーフがある写実的なものまでバリエーション豊富に展示されました。抽象的なものからは発想力の豊かさを、写実的な作品からは漆をコントロールする技術力の高さを感じ、全体を通して漆の素材としての可能性が感じられる興味深い作品になっています。

漆の素材としての魅力とデザイン、そしてそれを支える確かな技術力が一つになって生まれる素晴らしい作品でした。